

企業及びボランティア団体との連携による体験型森林環境教育や 森林整備活動の取組

－仁別森林博物館・仁別自然休養林を活用して－

アサヒビール株式会社秋田支社	業務担当課長	○野田 雪雄
仁別森林博物館ボランティア案内人会	会 長	○菊地 鏐一郎
東北森林管理局森林整備部技術普及課	企画係長	○岡浦 貴富

仁別森林博物館（写真 1, 2）は、秋田県秋田市仁別地区の中核施設として昭和 39 年に旧秋田営林局が設置し、仁別自然休養林内に所在しています（図 1）。例年、博物館の開館期間は 4 月下旬から 11 月上旬（開館日：月・金・土・日・祝日）で、冬期間は閉館しています。

また、仁別自然休養林は、昭和 43 年に前身の「仁別国民の森」として開園し、その後昭和 44 年に自然休養林に指定されています。この休養林は、天然秋田スギ、植栽後 100 年以上経ったスギの人工林や、秋には美しい紅葉も見ることできる場所です。なお、自然休養林とは林野庁が国民の保健休養のために指定した国有林のことで、特に風景が美しく、多様なレクリエーションを楽しむことができる森林です。

仁別森林博物館は昭和 39 年の開館以来、40 年以上が経過し、施設の老朽化等が目立ちはじめていました。このため平成 19 年に東北森林管理局が「仁別森林博物館展示改装検討委員会」を立ち上げ、博物館の改装と展示内容の見直しを行い、平成 20 年 5 月 3 日に仁別森林博物館はリニューアルオープンをしました。

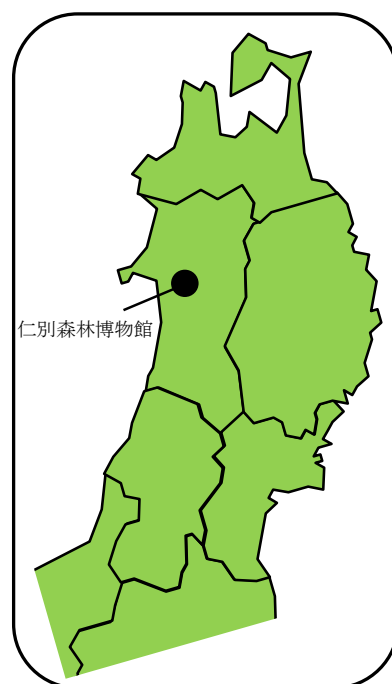


図 1 仁別森林博物館位置図



写真 1 仁別森林博物館の外観



写真 2 仁別森林博物館の館内

2 取組の方法及び経過

(1) アサヒビール株式会社秋田支社

アサヒビール株式会社（以下「アサヒビール」）は、社有林「アサヒの森」の森林経営や水源地の森林保全活動のほかに、平成 20 年から全国の営業拠点のうち 7 箇所で、林野庁の「レクリエーションの森サポーター」制度を利用し、オフィシャルサポーターとして森林の整備・管理活動の支援を開始しました。

そのうちのひとつとしてアサヒビール秋田支社が、平成 20 年 8 月 27 日に仁別自然休養林の支援協定書（仁別森林博物館及び仁別国民の森等を活用した体験型森林環境教育等の実施に関する協定（以下「三者協定」））を仁別森林博物館ボランティア案内人会及び東北森林管理局と締結し、オフィシャルサポーターとなりました。また、グループ会社の従業員とその家族、関係者、案内人会及び東北森林管理局等と協力した森林整備活動（アサヒ森林体験活動 in 仁別）についても継続的に行っています。

(2) 仁別森林博物館ボランティア案内人会

仁別森林博物館がリニューアルオープンしたのを契機に、自然や森林・林業等に豊富な知識や経験を持った方々が「仁別森林博物館ボランティア案内人会（以下「案内人会）」」を平成 20 年 7 月 14 日に発足させ、ボランティアとして仁別森林博物館及び仁別自然休養林の案内を開始しました。平成 28 年度の会員数は 20 名です。

案内人会の目的は、東北森林管理局が管理する仁別森林博物館及びその周辺の森林を活用し、体験型森林環境教育等さまざまな活動を通じて、自然や森林の大切さを多くの人に知ってもらうことを目的としています。

具体的な活動としては、

- ① 仁別森林博物館及びその周辺森林を来訪者に案内
 - ② 仁別森林博物館及びその周辺森林を活用したイベントの企画・運営
 - ③ 仁別森林博物館及びその周辺森林で東北森林管理局が実施するイベントへの協力
 - ④ 会員相互の親睦と資質の向上を図るための講習会等の開催等
- となっています。

(3) 三者協定の役割分担 (図 2)

①アサヒビール秋田支社は、オフィシャルサポーターとして資金提供、飲料水の提供や森林整備活動等を行っています。

②案内人会は、ボランティアとして博物館や周辺森林の案内・説明、展示やイベントの企画や運営を行っています。また、一般財団法人日本森林林業振興会秋



図 2 三者協定の役割分担イメージ

田支部が賛助会員として案内人会に協力しています。

③東北森林管理局では、施設の維持管理、活動に必要な備品等の提供、イベント等の企画・運営に協力等を行っています。秋田森林管理署では周辺森林等フィールドの維持管理をしています。また、秋田市仁別自然休養林保護管理協議会とも連携し、仁別自然休養林の整備活動を行っています。

3 取組の成果

(1) 仁別森林博物館における体験型森林環境教育の取組

仁別森林博物館で案内人会と東北森林管理局が協力して行っている体験型森林環境教育の取組は、自分自身の五感（見て・触れて・香って・聞いて）を使った「実際に体験しながら、本物から学ぶ」ことを重視したメニューを組み立てて、実施しています。

具体的には、来館者が案内人会や東北森林管理局職員の説明を聞いたり、見たりするだけでなく、木の香りや木の重さ等を感じたり、種子の飛び方を観察したり、体験学習用ワークシートによる学習活動（木の太さを測ったり、年輪を数えたり、方位を調べたり）を行っています。



写真3 年輪を数えている様子

(2) 仁別自然休養林における体験型森林環境教育の取組

案内人会は、来園者に対して自然休養林の案内や動植物の説明をするだけでなく、樹木見本園にあるホオノキの葉を使ったお面を製作して被ったり、笹の葉から笹舟を製作して川に流したり、イタドリの茎から笛を製作して吹いてみたりと、自ら体験することができるメニューも取り入れて、案内を行っています。

来園者からは「知人にも紹介したい」や「子供達も楽しめた」等の感想が聞かれ、一定の評価を得ています。



写真4
イタドリの笛の製作の様子

(3) 森林整備活動（アサヒ森林体験活動 in 仁別）

平成20年度から28年度までに森林整備活動を延べ13回（歩道へのウッドチップ敷設、散策路整備、登山道の清掃、東屋やトイレ施設等の整備等）を実施しています。これらの活動によって休養林を訪れる方が快適に過ごせるようになっています。また、整備活動の参加者にとっても良い自己啓発となっています。

平成28年度（第13回目）は、アサヒビール秋田支社の社員や家族、案内人会、太平山観光開発、東北森林管理局や秋田森林管理署から合わせて48名の参加があり、冬季の積雪や風雨にさらされ傷んでしまった仁別森林博物館周辺のトイレ施設、東屋やめもと橋にペンキを塗り直したり、散策路を歩きやすいように整備したりしました。この活動でトイレ

施設の外観等が生まれ変わったようにきれいになりました。

参加者から「ペンキ塗りや草刈りなどしたり、充実した活動となりました」、「子供たちも楽しく活動を行うことができた」等の感想があり、心地良い汗をかくことが出来ました。



写真5 森林整備活動の様子



写真6 参加者による記念撮影

(4) 入館者数（開館期間：5月上旬～11月上旬）

リニューアルオープンした平成20年の仁別森林博物館の年間入館者数は、その効果もあり約5,000人の入館者がありましたが、平成25年～28年の直近4年間の入館者数は年平均2,000人前後で推移しています。

また、平成28年度の団体利用としては、大分県、長野県や神奈川県内の団体、学校関係では秋田大学、秋田県立大学や秋田林業大学校等の利用があり、案内を実施しました。毎年、県外や教育関係者からの利用がみられます。

4 考察

博物館で行っている来館者アンケートの中で、『案内人の説明や対応』に関する回答は、非常に良かった77%、良かった23%となっており、ほぼ100%の方が案内人会の案内や説明等に対して評価をしている結果となっています。

このことから、来館者は、案内人会の活動により博物館の展示、森林・林業の知識を効果的に深めることができており、活動に関して一定の成果を得られていることがわかりました。

また、来館者の感想としては、「知人にも紹介したい」や「子供達も楽しめた」等の感想が多く聞かれています。

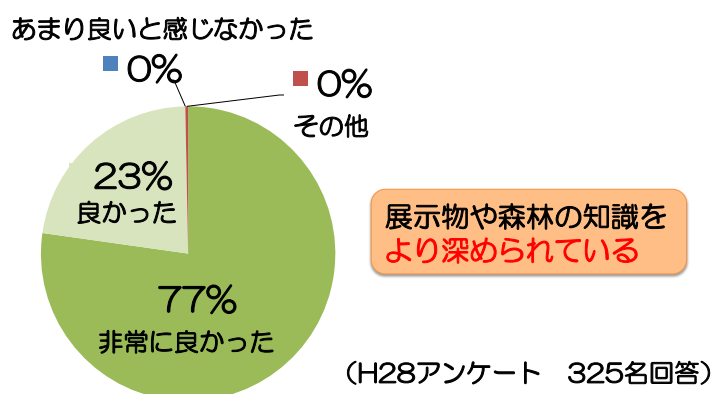


図3 『案内人の説明や対応』に対するアンケート結果

来館者アンケートの『博物館に対する意見』として、「とてもよい施設なので、もっとPRをしてもらいたい」や「もっとふれあいが体験できるコーナーを増やしてみてもいい」がありました。今後、より多くの方に利用いただくため、意見を踏まえた対応として、

(1) 魅力ある展示物を東北森林管理局のホームページや広報誌等でPR

実際に森林鉄道を走っていた蒸気機関車のボールドウィンやディーゼル機関車の酒井ボギー式8t機、新聞等にも取り上げられる零戦木製プロペラ（試作）、天然秋田スギの円板等を東北森林管理局のホームページや広報誌等で紹介し、より多くの方に仁別博物館の魅力を知ってもらい、利用していただけるようPRに努めていきます。



写真7 ボールドウィン



写真8 酒井ボギー式8t機



写真9
零戦木製プロペラ（試作）

(2) 体験型展示物の常設化

博物館での体験型メニューの実施は年数回のイベント実施時のみでしたが、今後博物館の展示物の充実や魅力を高めるため、常時、実施が可能な体験型メニューを追加します。

具体的には、①木の香り（スギ、ヒノキアスナロのおがくず）や②木の重さの違いを感じたり（異なる樹種の木片）できる展示、③測定器具（輪尺）を使って木の太さを測定できる体験学習、また博物館を低年齢層にも楽しんで頂けるように幼児用にスギの間伐材を使用した④積み木を常設していきます。



写真10
木の香りと木の重さの違い
を感じることができる展示



写真11
木の太さの測定体験の様子



写真12
積み木（スギ間伐材）の設置

最後に、アサヒビール株式会社秋田支社（企業）、仁別森林博物館ボランティア案内人会（ボランティア）と東北森林管理局が協定を締結して活動を行うことにより、仁別森林博物館の魅力が向上し、仁別自然休養林が整備されて、この場所を訪れる方が十二分に森林博物館や自然休養林を満喫することができるようになっています。今後もより多くの国民の皆様が森林博物館や自然休養林が利用されるよう、より一層工夫しながらこれらの活動を継続的に取り組んでいきます。